

こころせい

第42号

平成26年 5 月

発行 高知厚生病院
広報委員会

◆ 高知厚生病院の理念・基本方針 ◆

理 念

私たちは、安全かつ質の高い医療を提供し、皆さまに信頼される病院を目指します。

基本方針

1. 患者さまとご家族、更に地域の皆さまの幸せのための医療を実践します。
2. 患者さまの権利を尊重し、真摯かつ温かい態度で接し、心と心が通い合う医療を実践します。
3. 自己研鑽に努め、更に発展向上を目指します。
4. 地域の医療機関や施設と連携し、効率的な医療を目指します。
5. 地球環境に留意し、災害への備えを怠りません。

過去・現在・未来

(その7)

院長 山口 龍彦



医療の世界も日進月歩である。薬に関してだけでも、毎年たくさんの新薬が開発され、患者さんに使用されて目覚ましい成果をあげている。ホスピス・緩和ケアの分野でもがんの痛みによく効く薬が開発されていて、ほとんどモルヒネだけで対処していた時代（といってもほんの十数年前）とは隔世の感がある。

例を挙げると、昔からよく知られたモルヒネのほかに2003年、オキシコドンという薬剤（医療用麻薬）が使用できるようになり、同じ頃フェンタニル（医療用麻薬）のパッチ（貼り薬）が加わった。同年、甘みを付けて服用しやすくしたモルヒネのチューブ入り水薬（オプソ）が出て急激な痛みの出現にもすぐ対処できるようになったし、モルヒネの200mgアンブールは持続皮下注射を簡便に施行できるようにした。その他、昨年はフェンタニルのバツカル錠（頬の裏側の口腔粘膜から吸収させる）、舌下錠（舌下の口腔粘膜から吸収させる）なども使うことができるようになっている。

こういった薬は昔からあるモルヒネ末（モルヒネの粉末）と比べると何故かとても高価ではあるが、それだけに薬のメーカーはその普及に熱心に取り組んでくれている。安全で効果的な使用方法を医師に伝えたり、緩和ケアの勉強会もメーカー主催で盛んに行なわれてきている。また、2008年からは高知緩和ケア協会が主体となって「医師に対する緩和ケア研修会」が年数回のペースで開催されるようになり、医師の間に「ほとんどのがんの痛みは取り去ることができるものである」との知識、そしてその技術が広まってきた。

現在では、痛みをなんとかして欲しいという理由でホスピス・緩和ケア病棟に来られる方はほとんど見かけなくなっている。では、患者さんはそこに何を求めて来られているのであろうか。大切なことは「人生と生活の質」だと思う。痛みが取れたのち、残された大切な時間をどう生きるかと考えたとき、さまざまな選択肢を提示できて、患者さんにご家族の期待に応えることが私たちの仕事となっている。

あの豪雨による水害のあった1998年頃の話である。従業員数7～8名ほどの小さな会社の社長をされ

ている五十代の男性が、がんセンターの役割を担う大きな病院から転院して来られた。当時はまだがん告知が一般的ではなかったので、その方もご自分が何の病気が正しい説明を受けていなかった。当院は「痛みを取る専門の病院」ということで来られていたのだ。転院の翌日には痛みも取れ、早くくればよかったとも話して下さった。

その後一週間は痛みもなく、病棟内を散歩できるような穏やかな日々であったが、食事が進まないのも、彼は入院を継続し、病気が快方に向かうのを待つことにした。残念なことにほとんどの場合、がんという病は進行性である。さらに数日すると、相変わらず痛みはないものの体はどんどんしんどくなり、歩行もおぼつかなくなってきた。医療に対する不信感が募るものの、さりとて医師に自分から訊ねることも恐ろしくてできない。彼にとっては鬱々とした日々が数日続いた。

ある朝、体を動かすがさらに困難となり（自分は死につつあるのだ）と悟った彼は意を決して医師を呼び「俺の病気は何なんだ。」と肩で息をしながらも静かに訊かれた。覚悟をされた方の真剣さに、「実はね、あなたの病気は〇〇癌という名前の癌だったのですよ。」と正直に伝えるしか私に術（すべ）はなかった。

彼は「やっぱりがんだったのか。畜生！」といて、上体を起こすと枕に何度かパンチを食らわせた。しばらく間があった後、母親に向かって「おふくろ、すまん。すまんが先に逝く。」と先立つ不幸を詫びたのだった。闘病の心労をひとりで背負い続けてきた奥さんにも、「苦勞をかけた。すまなかった。後を頼む。」といった。

八十を越えて背中丸くなった母親が数日前に田舎から出てきて彼に付き添っていた。母親にも「かわいそうだから」と病状など詳しいことは知らされておらず、この時はじめて二人に対するがん告知がなされたことになる。二人にとって、また、奥さんを含めた3人にとって、とても辛い時間であったが、また真実の時間でもあったと思う。互いにねぎらい、感謝の気持ちを伝えあい、別れを言うことができた。ただ、彼に残されていた時間は思いのほか短いものでしかなく、告知を受けておよそ1時間後に彼はあの世へと旅立っていったのである。

もし、という仮定は成り立たないことは十分知りつつも、現在ならどうであろうか。彼は自分の病気についてきちんと説明を受け、正しい理解をしているはずだ。がんセンターで治療をしている時から痛みで苦しむことは少なかったであろうと思う。そして、早めに当院の緩和ケア外来を受診して、がんセンター退院後は家で過ごすことを選択していたのではないだろうか。そうすれば訪問看護、訪問診療を受けつつ、奥さんと子どもたち、また母親ともよい時間をたくさん持つことができただろう。体力の残されているうちに会社を誰かに引き継ぐ算段ができていたかもしれない。そうなれば、心残りや無念の感情もずいぶん和らいでいたのではないだろうか。最後の数日はホスピス・緩和ケア病棟に入院してもいいし、訪問看護を受けつつ最後までご自宅に留まるのもよしである。

患者さんやご家族が過ごしたい場所でいい時間を過ごして欲しい。現在はそれができる仕組みが整ってきているし、さまざまな選択肢をご自分で選べる時代になったのである。



緩和ケアレポート

緩和ケアレポート①

緩和ケア病棟師長 門田 和代

ピアノ・歌コンサート～春風に乘せて～

平成 26 年 3 月 19 日に、4 階フロアにて四国二期会高知支部の方々による、コンサートがおこなわれました。聴いているだけではなく、一緒に歌っていただく事もできました。写真は「青い山脈」をエレクトーンの生演奏に合わせて合唱しているところです。普段よりも大きな声を出して元気に歌われる患者さんもありました。患者さんだけではなく、ご家族、スタッフも一緒に楽しんで参加することができました。ボランティアの皆さん本当にありがとうございました。今後もこのようなボランティアの方々に来ていただき、患者さん、ご家族の入院生活に喜びや癒しの時間を提供していきたいと思います。



緩和ケアレポート②

緩和ケア科科長 小栗 啓義

“第19回 豊かないのち講演会”が高知県民文化ホール（グリーン）で開催されました。（2014年5月18日）

今年度は、「“いのち”を全うする～希望を持って迎える旅立ち～」をテーマに日本死の臨床研究会中国・四国支部と共同で開催されました。

午前中の研究発表会では、県内のみならず中四国の各県から様々な視点での発表がありました。医師、看護師はもとより理学療法士、薬剤師、栄養士、ソーシャルワーカーなど本当に他職種からの発表をいただき、幅広く、また内容の深い研究会になりました。

“豊かないのち講演会”での基調講演は聖路加国際病院小児総合医療センター長の細谷亮太先生をお招きして「子どもの一生を診る」と題してご講演をいただきました。ご自身の経験をもとに良寛禅師の話などを交えお話をいただきました。先生の死生観に深く触れることができ、癒やされた方も多かったことと思います。

パネルディスカッションでは、4人のパネリストに「希望をもって迎える旅立ち」というテーマでお話をいただきました。現代の死を見つめる中で、普段生活している場での最後を迎えることのすばらしさ、「暮らしの力」を大事にした看取りのすばらしさがたくさんの聴衆に伝わったと思います。

（文責：小栗啓義）





こんにちは！！訪問看護です。

訪問看護ステーションこうせい 石川 美奈子

訪問看護って…？

訪問看護とは、病気や障害を持った方が住み慣れた地域やご家庭で、その人らしく療養生活を送れるように、看護師や理学療法士が生活の場へ訪問しケアを提供し症状の緩和、自立への援助を促し、療養生活を支援するサービスです。

どんなことをしてくれるの…？

日常生活の看護、医療処置・管理、生活リハビリテーション、介護者の支援・介護相談、認知症・精神心理的看護、各種在宅サービス相談、終末期の看護（痛みのコントロール、看取りの体制への相談・アドバイス、本人・家族精神的支援）など24時間365日対応しています。

利用できるのはどんな人…？

病気や障害のある方。赤ちゃんからお年寄りまで

利用するには…？

かかりつけ医の指示書が必要となります。

お金はどれくらいかかるの…？

医療保険での訪問看護：1～3割負担（1回当たり1000～3000円程度）

介護保険での訪問看護：1割負担（1時間830円）



お困りの方は一度ご相談ください。

訪問看護ステーションこうせい

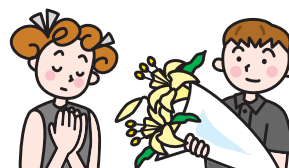
TEL 088-885-6714

院内行事

平成25年度 高知厚生病院合同慰霊祭

地域連携・緩和ケア支援室 乾 亜矢

平成26年3月1日、平成25年1月から12月までに当院または在宅でお看取りをさせていただいた225名の方々の御霊に対し合同慰霊祭が行われました。今年は、61名の御遺族にもご参列いただきました。



新人オリエンテーション

地域連携・緩和ケア支援室 川田 優美

H26年度に入社した新人スタッフへのオリエンテーションが4月2日、3日に行われました。初めは院長からのお話から始まります。当院の理念である「安全かつ質の高い医療の提供」をディズニーランドに例えて話されます。ディズニーランドはアトラクションの楽しさやキャラクターの可愛らしさという見た目で楽しませる以外に、全てのスタッフがお客さんに「お・も・て・な・し」という心のサービスを行うらしいのです。館内を掃除するスタッフも、ディズニーランドの一員としてお客さんに対応します。すべてのスタッフがお客さんを夢の国で楽しいひとときを過ごしてもらう事を目標にしているのではないのでしょうか。

私は、院長の話を見聞き、この「質の高い医療」の中には、医師・看護師だけではなく、全スタッフが患者さん1人1人に合った関わりをしていこうと目標を一つに協力し合うことが大切なのではないかと改めて感じました。



消防訓練

地域連携・緩和ケア支援室 川田 優美



平成26年3月27日14:00から、院内での火災訓練が開催されました。2階病棟にある消防署と直接お話ができる装置の操作方法を教えてくださいました。写真は前田課長がお手本を見せてくださっているところです。装置のボタンを押し、氏名・現在いる場所・火の元などを報告し、消防署からの指示を待ちます。私は、練習とはいえ何かを報告するのは緊張します。

実際火災が起きた場合、自分は冷静に報告し、指示を待つことができるか不安になりました。水消火器訓練では操作方法を学びました。水消火器のホースの先を火の中心に向けて発射しなければいけません。頭では分かっていますが、実際火の絵を目の前にすると恐怖心からうまく発射できませんでした。

日頃から練習し、体に叩き込むことで、緊張しながらも行動に移すことができると思います。このような院内研修での経験を活かして患者さんや地域の皆さんの為に頑張っていきたいと思っています。



一部新病棟の建設及び既設改修工事が完成

事務部 総務・用度課

昨年の3月より着工しておりました、一部新病棟の建設及び既設改修工事が完成し平成26年5月より災害に強い新しい病院としてスタート致しました。



病院の機能を維持しながらの工事となりましたので、当院をご利用の皆さまや近所の皆さまには大変ご迷惑をお掛け致しましたが、皆さまのご理解とご協力をいただき完成することが出来ました。厚くお礼申し上げます。

また、設計監理を行っていただいた依光建築設計事務所様ならびに施工をしていただいた岸之上工務店様には、限られたスペースでの工事にもかかわらず様々な要望にもお応え頂き誠にありがとうございました。また無事故で建設をしていただき厚くお礼申し上げます。

| 高知厚生病院 外来担当医 | | | 診療時間 | | | | | |
|----------------|----|----|-------------------|-----------|------|-------------------|--------------------|------------------------------------|
| | | | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
| 内科 | 午前 | 1診 | 計田香子 | 副院長 山口泰子 | 計田香子 | 計田香子 | 副院長 山口泰子 | 高知大医学部第2内科 谷口義典(隔週) 井上紘輔(隔週) |
| | | 2診 | | | | | 高知大医学部第3内科 窪田哲也 | |
| | 午後 | 1診 | | 計田香子 | | 外来担当医 | 計田香子 | (休診) |
| | | 2診 | | 小栗啓義 | | | | |
| 消化器科 外科 | 午前 | 1診 | 健診 | 吉本 忠 | 健診 | 吉本 忠 | 吉本 忠 | 吉本 忠 |
| | 午後 | 1診 | 吉本 忠 | 吉本 忠 | 吉本 忠 | 吉本 忠 | | (休診) |
| 整形外科 | 午前 | 1診 | 岩津 理 | 理事長 山口継志郎 | 岩津 理 | 院長 山口龍彦 | 理事長 山口継志郎 | 岩津 理 |
| | 午後 | 1診 | 岩津 理 | 岩津 理 | 岩津 理 | (休診) | 岩津 理 | (休診) |
| 緩和ケア (予約診療) | 午前 | 1診 | | | | | | (休診) |
| | 午後 | 1診 | 院長 山口龍彦 | 院長 山口龍彦 | 小栗啓義 | | 小栗啓義 | |
| 禁煙外来 (予約診療) | 午前 | 1診 | | | | | | (9時～11時) 計田香子 |
| | 午後 | 1診 | (14時～16時) 計田香子 | | | (14時～16時) 計田香子 | | |

- ※ 介護保険・要介護認定等…医師にご相談下さい
- ※ 通所リハビリテーション…月曜日～土曜日(ご利用に関しては、医師にご相談下さい)
- ※ リハビリテーション科…月曜日～金曜日の午前、午後と土曜日の午前中
- ※ はり治療…毎週火曜日と木曜日の午前中で予約制です
- ※ 緩和ケア相談…(予約制) ※ 緩和ケア外来…(予約制)
- ※ 禁煙外来…(予約制)

日曜・祝日・土曜午後 休診

ご予約に関しては
病院受付までご連絡下さい

TEL:088-882-6205



当院は
平成15年9月22日より
日本医療機能評価機構
認定病院となっております。



◆ 特定非営利法人
日本緩和医療学会
より認定研修
施設として認定
されました



◆ 厚生労働省より
医師の研修施設
の認定を受けまし
た



工事も無事に終了し、新しい環境になれつつあります。
新しい職員も加わり、いろいろなことにチャレンジ
していきたいと思っています。
また、広報誌への御意見、ご感想等お寄せください。



高知厚生病院

〒781-8121 高知市葛島1丁目9-50 Tel.088-882-6205 Fax.088-883-1655
ホームページ <http://www.kochi-koseihp.jp>